



MODEC 三井海洋開発株式会社
第36回 定時株主総会

2022年3月29日



事業報告（2021年1月1日～2021年12月31日）

(注意事項)

当社の連結業績は、当連結会計年度の期末決算より従来の日本基準に替えて国際財務報告基準(以下、IFRS)を適用しております。また通貨単位につきましても従来の日本円に替えて米ドルでの表示に変更となっております。

これにより本資料内では過年度数値について以下の取り扱いをしております。

- ・ 2020年度：IFRSベースに準拠(米ドル)
- ・ 2019年度以前：日本基準(日本円)の決算数値を各決算期末の対顧客電信直物相場の仲値で米ドルに換算

2017年：1米ドル=113.00円

2018年：1米ドル=111.02円

2019年：1米ドル=109.54円



2021年12月期：経済動向、原油価格

- 本年度も新型コロナウイルスの影響を受けるも年後半には回復傾向
- 原油価格（WTI）は50米ドルから80米ドル前後で推移

原油価格（WTI*）

— 原油価格（WTI）

米ドル/バレル



* : West Texas Intermediate（米国で生産される代表的原油、原油価格）

2021年12月期：ハイライト



FPSO Carioca MV30



Equinor Bacalhau FPSO

顧客	Equinor
契約形態	Sales and Purchase Agreement
鉱区	Bacalhau Field (旧 Carcara ブラジル)
水深	2,027m
原油生産量	220,000 bopd
ガス生産量	500 mmscfd
貯油能力	2,000,000 bbls

- 多額の最終損失を計上(当期損失はUS\$363M)

※内約US\$296Mは将来見込みに対する引当

- ・ MV20投資減損 :US\$100M
- ・ MV15/18/20 将来見込み修繕費に対する引当 :US\$109M
- ・ MV31/33 建造追加工事費に対する引当 :US\$87M

- Equinor Bacalhau EPCIの正式契約発効
- MV30 Sepiaのチャーター開始

2021年12月期：業績悪化要因①

旧船の状態悪化(MV15/MV18/MV20)

コロナウィルス感染拡大

FPSOでもコロナ感染者発生、乗船人員数制限

経年劣化により、長期間の操業停止や機器故障が発生

上記状況も踏まえ、将来の稼働率・修繕コストの想定を見直し

減損損失、引当金の計上

- 操業停止期間の長期化による収入減少、及び修繕費用の増加
- ブラジル旧船O&M修繕費に係る引当金の計上
- MV20投資減損

2021年12月期：業績悪化要因②

建造工事(EPCI)

工期の延長、仕様変更などにより多額の追加費用を見込む

MV31

- 新型コロナウイルスの影響による中国への入国制限があり工期が延長
- 上記に伴うプロジェクト実施計画の変更により費用が増加
- 搭載機器の交換費用を引当

MV33

- 搭載機器の物量が当初想定と異なったことによる費用の引当
- 工期の遅延を防止するためのアクセラレーション費用の引当

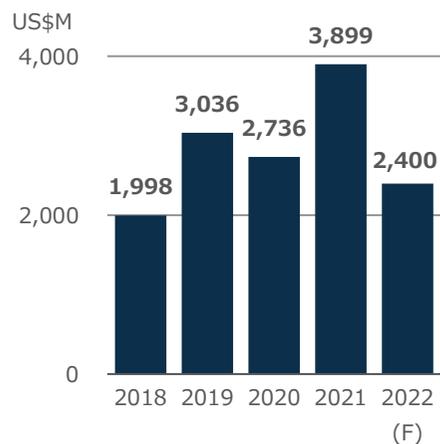
2021年12月期：建造工事の状況(2021年12月現在)

	FPSO Guanabara MV31	FPSO MIAMTE MV34	FPSO Almirante Barroso MV32	FPSO Anita Garibaldi MV33	FPSO Sangomar	FPSO Bacalhau
顧客	Petrobras	Eni Mexico	Petrobras	Petrobras	Woodside	Equinor
契約形態	EPCI + Time Charter (22 年)	EPCI + Time Charter (15 年+1年毎x5 の延長オプション)	EPCI + Time Charter (21年)	EPCI + Time Charter (25年)	Purchase Contract + O&M (10年+1年毎x10 の延長オプション)	EPCI + Short term O&M
引渡し (予定)	2022年	2022年	2023年	2023年	2023年	2024
鉱区	Mero	Area 1 Block	Búzios	Marlim	Sangomar	Bacalhau
所在地	ブラジル 	メキシコ 	ブラジル 	ブラジル 	セネガル 	ブラジル 
水深	2,100 m	32 m	1,900 m	670 m	780 m	2,027 m
貯油能力 生産量	1,400,000 bbls 180,000 bopd 424 mmscfd	700,000 bbls 90,000 bopd 75 mmscfd	1,400,000 bbls 150,000 bopd 212 mmscfd	1,000,000 bbls 80,000 bopd 248 mmscfd	1,300,000 bbls 100,000 bopd 130 mmscfd	2,000,000 bbls 220,000 bopd 500 mmscfd
						

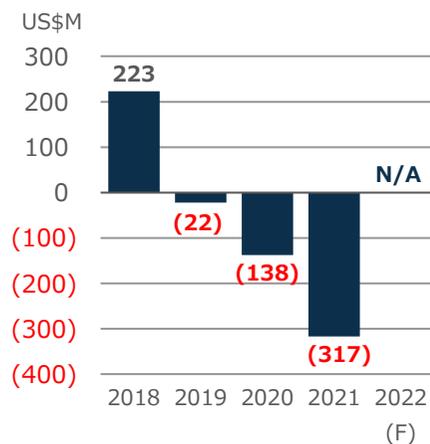
連結業績の推移



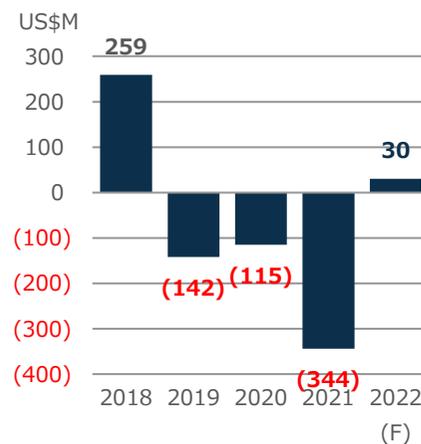
売上収益



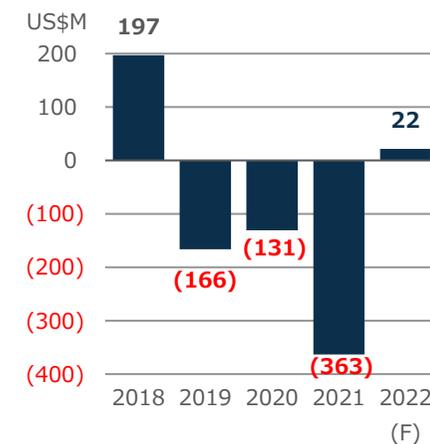
営業利益



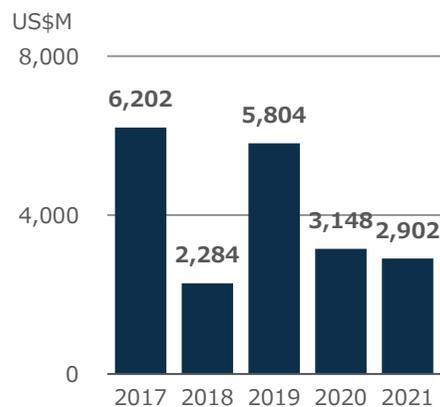
税引前利益



親会社株主の所有者に帰属する当期純利益



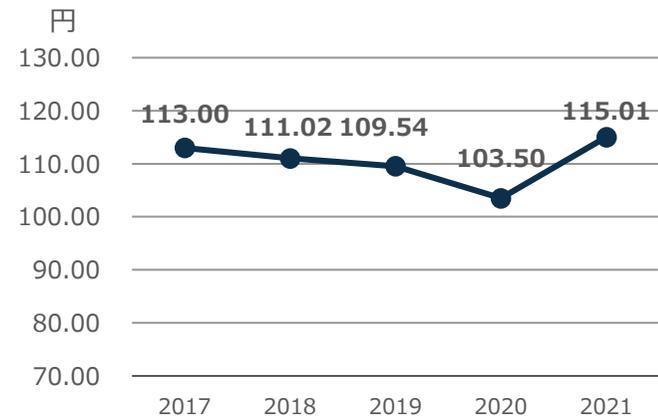
受注高



受注残高



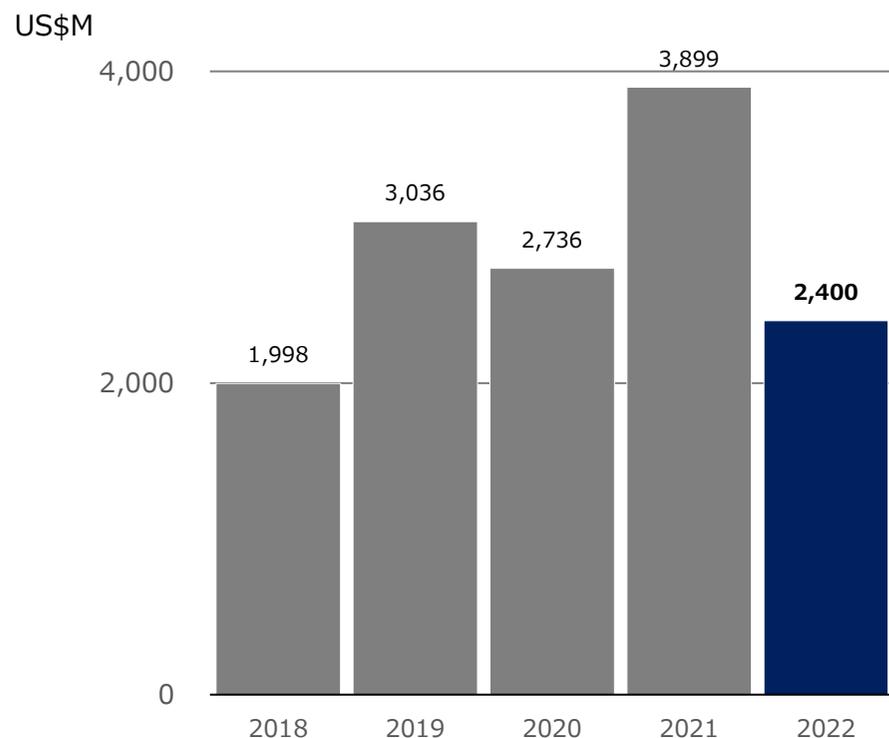
決算時為替レート(\$/¥)



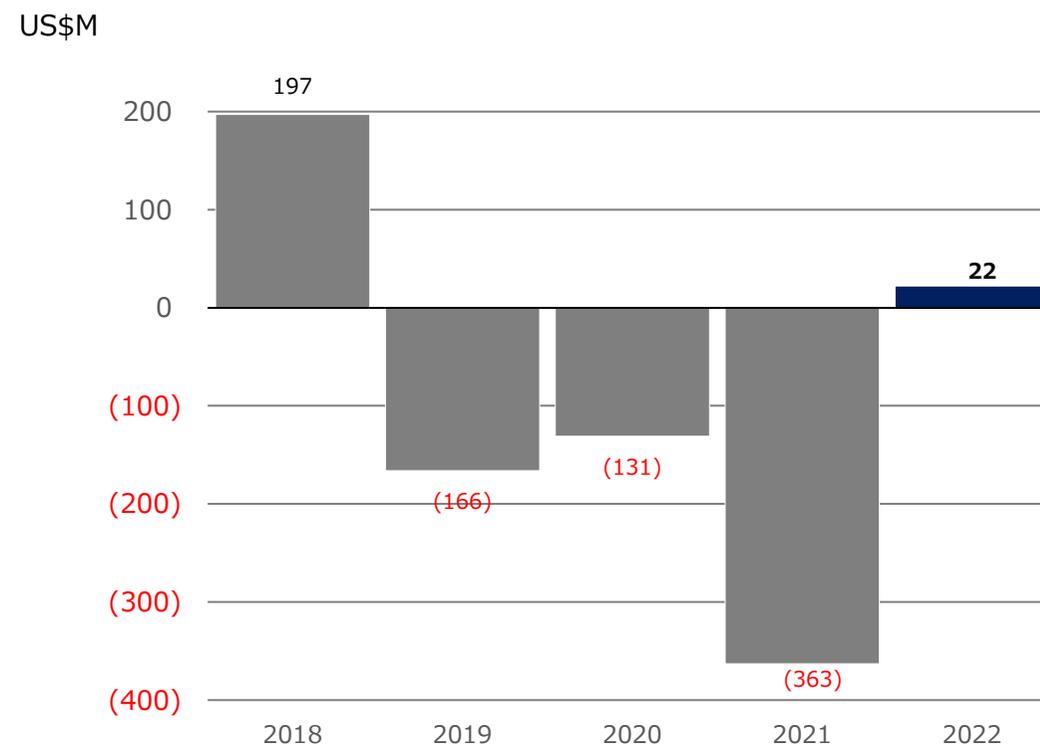
(Note) 2018年、2019年の営業利益については、日本基準の営業利益に持分法利益を加算

2022年12月期：業績予想

売上収益



親会社の所有者に帰属する当期利益(損失)



- 既存の建造工事が終盤を迎えることにより、売上は昨年度より減少しUS\$2,400Mを見込む
- 新型コロナウイルス感染症の影響が残ること、及び引当金には含まれないO&MのペナルティーやFPSOの追加修繕費用を見込むものの、US\$22Mの当期利益を確保

対処すべき課題

コスト競争力の強化

高付加価値FPSO開発による差別化

気候変動リスクへの取り組み

内部統制の強化及び子会社管理の徹底



Thank you